

霞ヶ浦と漁

大徳網や延縄など漁具漁法のほとんどは江戸時代に生まれたものとされるが、有名な帆曳船による「帆曳き漁」は明治時代初期に考案されたものである。

1960年ごろの資料によれば、主に漁獲されていたのはワカサギ・シラウオ・ウナギ・シジミ・タンカイ（カラスガイ）・エビ・イサザアミ・ハゼ・フナ・スズキ・タナゴ・コイといったもので、豊かな淡水性の魚介類はもとより、スズキなどの汽水域に生息する魚もよく漁獲されていたが、これ以降、霞ヶ浦の漁業は大きく変化していく。

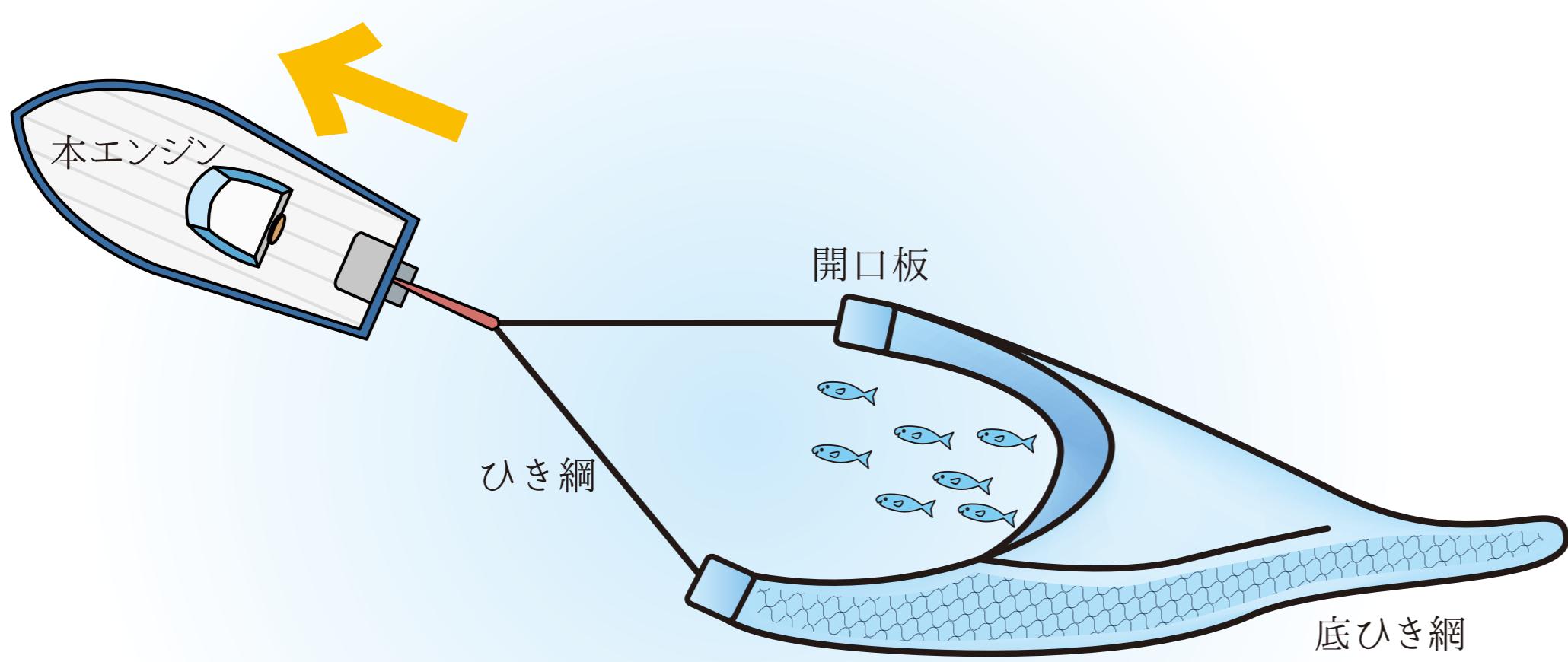
1960年代後半にはそれまでの帆曳き漁にかわり、効率のよいトロール漁業への転換が進む。

写真：国土交通省



漁の方法

わかさぎ・しらうおひき網漁（通称：トロール）



別称：トロール、縦びき

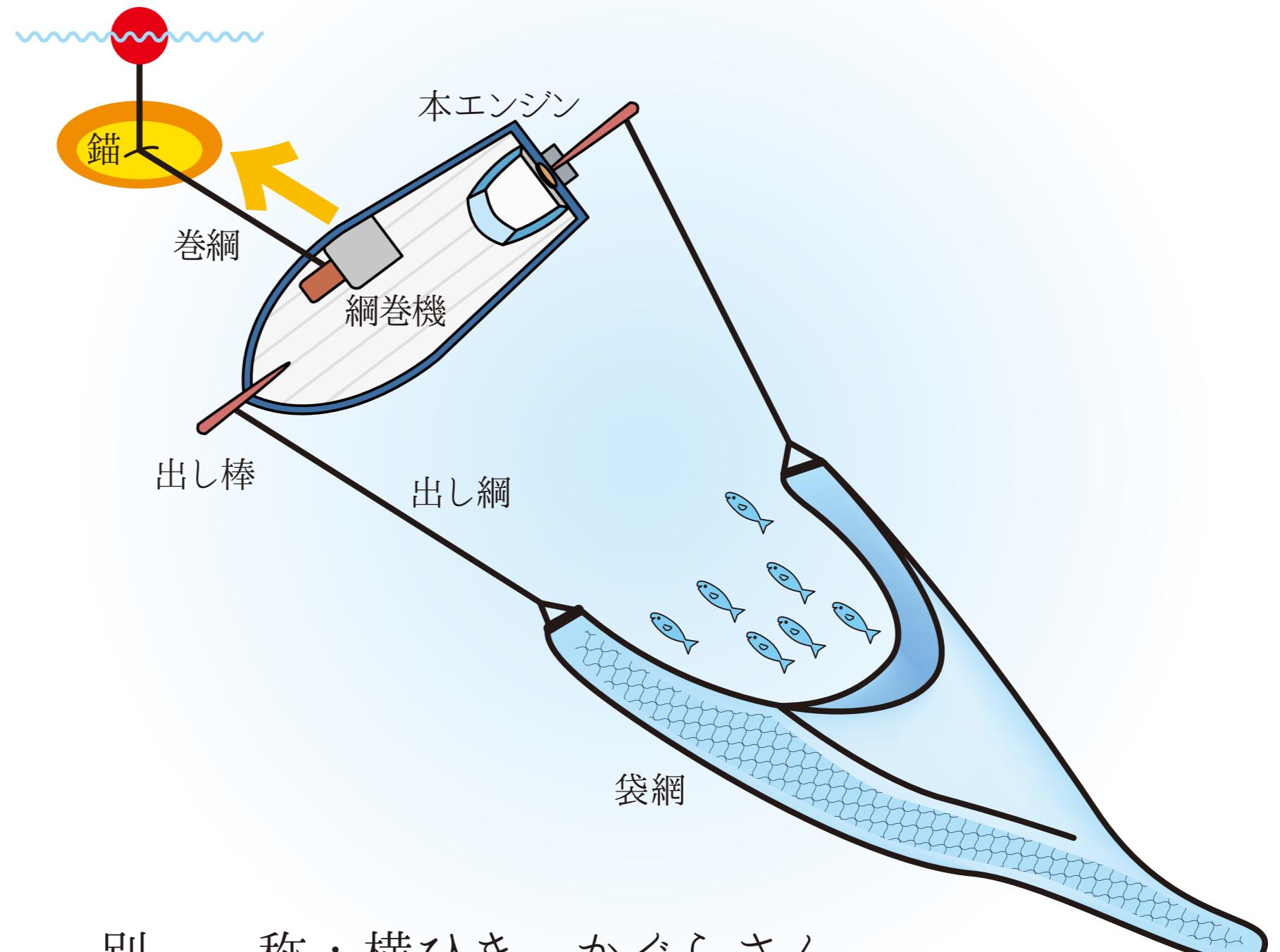
許可等：知事許可漁業（小型機船底びき網漁業）

対象種：ワカサギ、シラウオ、ハゼ類、エビなど

漁業期間：7月21日～12月31日

霞ヶ浦北浦の基幹漁業、動力船の後方に網をいれて水中を曳き魚を獲る漁法。狙う魚種にあわせて曳く層や網の目合いなどを使い分けます。なお霞ヶ浦では、日出前に操業する場合には、地元漁協の取り決めにより船首に青色灯、船中央に白色灯を点灯して操業しています。

いさざ・ごろひき網漁（通称：横ひき）



別称：横ひき、かぐらさん

許可等：知事許可漁業（小型機船底びき網漁業）

対象種：イサザアミ、ハゼ類、エビなど

漁業期間：3月1日～翌年1月20日

船の横に網を入れ、船上の綱巻機の力で反対側に出した綱を卷いて網を引く漁法。最漁期は春季。



霞ヶ浦と共に

明治後期 初代中村通により発足

昭和33年 2代目 中村亀太郎が事業継承

昭和34年 逆水門 昭和42年霞ヶ浦の堤防工事着工

平成3年 3代目 中村義夫が事業継承

平成26年 4代目 中村昇により株式会社設立



中村 通